



みんな出ました大掃除

北川中

第175号 (16期第9号)

発行・光が丘パークタウン

ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-4-403

電話03(3938)9181番

発行責任者 吉 柳 俊 孝

消防車が通れない

ゆりの木通りの駐車違反！ 消火栓の上にも！

「火の用心」と元氣な掛け声が夜空に響きます。カーン、カーンと拍子木の音が続きます。

恒例になっている歳末パトロールが暮れの二十三日から三十日まで行われました。自治会役員・世話人と管理組合理事が当番で、毎日約十名の参加がありました。子ども達も参加し、毎日来る子もありました。

このパトロールでは、迷惑駐車警告、ごみ集積場の防火対策、ホームレスや不審者の発見などに重点を置いて見回りました。団地では死角が多く、粗大ごみ置き場から持ち出されたものが物陰に集積してあったり、

ホームレスの寢床が通路下や公衆便所に有ったりします。今回のパトロールでは、そういう物はありませんでした。ただ、パトロールの終了した後、どこからともなく現われ、十一号棟や十三号棟のエレベーターホールに朝までいるとの報告もありました。

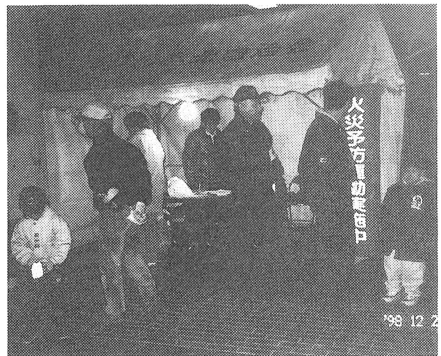
今回のパトロールで、特に気になったのは、ゆりの木通りの駐車違反です。

全国公団住宅自治会協議会（自治協）では、昨年末に実施した、公団総裁・建設大臣宛ての署名運動に続いて「団地の生活と住まいアンケート」に、取り組むことになりました。

このアンケートは、

国際居住年の一九八七年に第一回を行い、以後三年おきに実施してきました。

ゆり北では、第二回のアンケートから参加しています。従来は秋の統一行動に合わせて実施してきましたが、今回は公団改革が正念場を迎えている



子どもたちも「火の用心」

十件ほど、光が丘一帯での犯行もあるようです。一応解決を見ましたが、このような事件は、新らての犯人や犯罪予備軍がいる様です。引き続き用心が肝心です。

不用自転車二百台回収
来年は減らしてほしいな！

年末大掃除と自転車整理を、十二月二十日に自治会と管理組合共同の事業として行いました。各棟から多数の居住者の参加がありました。

自転車整理では、第一回札付け（保有台数調査）では、一千七百台余ありました。二回目の札付けでは、シールの貼付のお願いと撤去の警告を行いました。八百台をやや下回る台数

でしたが、最終の自転車移動では二百台余になりました。三週間余のキャンペーンにも拘らず、年を越して『私の自転車は？』との問い合わせもありました。また、団地外の住所のものもあり、連絡のつくものにはお

旬）賃貸住宅の各戸に配布してあります。

回収は、一月三十一日(日)までに各棟の一階集合郵便受け箱の『自治会ポスト』(二号棟はアンケートの回収ポストを設置)に直接投入して下さい。

アンケート結果は、各団地ごとに集計するとともに、二三区自治協・全国自治協でも地区集計・全国集計を行います。ゆり北の集計概要は次号でお知らせする予定です。

に乗り合わせない。不審な人が後を付けてきたら、やり過ぐす。どここの家でもいいから飛び込み、助けを求める、など自衛策を考えておいください。

万一被害に遭ったら、大声で助けを呼ぶことを心掛けて下さい。エレベーターでは非常ボタンを押す。通路や階段だったら、火災警報装置でもかまいません。また、最寄りの家から一〇番通報もお忘れなく。

百台回収

知らせして引取りにきていただきました。盗難にあったとの話でした。今回は、ゆりの木通りに山積みになっている自転車も整理の対象にして板橋区に撤去をお願いしました。ここには約六十台の自転車が放置され

ています。また「中学校予定地」東側に練馬区が設置している暫定自転車駐輪場にも、放置自転車が五か所に、山積みになっています。これについては、練馬区に撤去を要請しています。

新成人は
三十四人

一月十五日は成人の日。

今年の板橋区の新成人は六、八七二人で、前年より二七七人（四％）減り、下赤塚地区でも、男一五五人、女一七三人、計三三八人と、前年より七一人（一七％）も大幅に減りました。このうち、ゆり北の新成人は男十二人、女二二人計三四人でした。

「成人の日のつどい」は、地区ごとに行われ、下赤塚地区では赤塚公会堂で、郷土芸能「赤塚獅子舞」も上演されて、若い門出を祝いました。今年も、統一地方選挙の年で初めて一票を生かして欲しいものです。

ゆりの木会

みんなの健康を

誓ひあつて

今年も和やかに新年会

去る一月十一日（日）、赤塚新町集会所で、ゆりの木会新年会が開かれました。

小川会長長の開会の挨拶で、和やかなな新年会の幕開けとなりました。むつみ会並びにゆり北自治会も招待され、我がゆり北自治会からは、塩原副会長以下、合計六名が出席しました。

本年の新年会は、ゆりの木会会員によるカラオケあり、ゆりの木会新会員の沢さん、寺島さんによる日舞あり、といった、和やかで楽しいものとなりました。ゆり北自治会からも、川島さんが代表して美声を披露しました。

楽しい時間は瞬く間に過ぎ去るもので、二時間に亙る新年会も、ゆりの木会長老の水原さんの閉会の挨拶の後、今後のゆりの木会の活躍と会員の健康を誓い、終了となりました。

ゆりの木会の日頃の奉仕活動に感謝の意を表しますとともに、会員の皆様のご健康をお祈りいたします。

又、その人生経験や知恵を、この地域に暮らす年少者に語り継いでいただければ幸いです。



和やかに話はずむ

文化展に寄せて

投稿 その二

クリスマスカード作り

大勢の子供たちに囲まれて

「クリスマスカード作り? うん、やりたい」

ワークショップの音がかけられたときは、なんだか、デパートに誘われたような気持ちで、即座にうなずいたものです。

さて、どんなカードにしようか? 大人も子供も楽しめて、簡単なものがないな。尚かつ、自由な発想で仕上がり個性が現れた方がいいわね。

ポップカードなら、紙だけで楽しいものになるぞ。いや、まてよ。保育園や幼稚園で、先生方が作って下さるので、皆、何度か作っているかも。パーチメントカードは?

これは手間がかかりそうね。いいこと、廃材を使ったカードも面白いから。仕上がりは、ある程度見えるほうが作りやすいかな。

今、お金をかければ、たいいのものは作れるでしょう。だからこそ、身近にある物を利用して制作するほうが、ドキドキした喜びもあるような気がします。

あれこれ考えるうちに、私の胃はキリキリとしだし、受けた仕事の大きさを改めて感じました。ええい、とりあえず、いろいろな見本を作ってみよう。二十点ほどを作り、最終的に決めたのが今回のカードでした。

何人集まるかしら? 材料を調達しながら、少し、不安がよぎります。そして、当日。用意した二日分の台紙が、一日で無くなるほどの大勢の子供たちに囲まれて、胸が一杯になりました。参加できない方もいらして申し訳なく思います。来てくださった皆様、本当にありがとうございます。期待したほどでもなかったなど、思われた方、御免なさい。

なんらかのかたちで文化展の楽しさや作る喜びを味わっていただけたら、嬉しく思います。

ゆり北実行委員の皆様、とても良い機会をいただき、ありがとうございます。私は、今後もちろこちで制作発表を続けていきます。また何か、お手伝いできることがありましたら、宜しくお願いします。

十号棟 大山美穂



この真剣なまなざし、ものを作る喜び

るりちゃんのおかあさんが
じょうずだねといってくれました

十一月二八日、ゆり北文かてんに行きました。そこで、リースやブローチなど、いっぱい作りました。さ

いしは、リースづくりでした。リースづくりでは、まるいかたちのダンボールに、マカロニをかざりつけました。そして、できあがったら、こんどはブローチ。ブローチは、はじめはかんたんだったんですけど、とちゅうでむずかしくなりました。でも、ともだちや、いろんな人につくってもらったおかげで、とってもきれいなブローチができました。

ました。

カードづくりでは、るりちゃんのおとうさんと、るりちゃんのおかあさんがたんとうでした。わたしは、あのとき、いっぱいかざりをつけました。そしたら、るりちゃんのおかあさんが、じょうずだね。と、いってくれました。わたしは、とってもうれしかったです。

上野浩樹

My enjoyments



過去、いろいろなことに挑戦してきた。人生を薔薇色にするために。まず思いついたのは、楽器だ。楽器は良い。愛を奏でることができる。だから、聴く者の心を和やかにさせる。

そんなわけで、多感な少年時代、ギターを手にした。折しも、髪の毛の長い若者が熱くメッセージを歌っていた。これしかない、と少年は考えた。例えば海辺で、例えば草原で、ギター一本あれば、必ずもてる、とも、少年は考えた。ギターさえあれば、人生は薔薇色だ。

が、世の中、そう甘くはなかった。確かに音は出る。右手指で爪弾けば良いのなもの。けれど、問題は左手だ。「コード」なるものを暗記しなければならぬ。これが結構たくさんある。髪の毛の長い若者のように奏でるには、これらを覚えなければならぬ。まず、Cのコードを憶えた。Amも憶えた。でも実際に押さえるのは難しい。第一、指が痛くてかなわない。それに、CやAmは比較的簡単だからそれなりの音が出たが、Fになると、それらしき音すら出ない。そもそも、少年は指が短いのだ。仕方がないので、一年間ほど、あらゆる曲をCとAmだけで弾いたが、誰も聴いてくれようとはしなかった。例えば海辺で、例えば草原で、少年は孤独に、CとAmだけに勝手に編曲した曲を弾いていた。愛を奏でたつもりだったが、もてもしなかったし、人生が薔薇色にもならなかった。

そんなわけで、すこし成長した少年は、ギターを捨て、横笛(フルート)にすべてを託した。フルートは良い。やわらかな音色がエレガンスで乙女心をくすぐる。なによりも、育ちが良さそうに

見える。フルートさえあれば、人生は薔薇色だ。

が、世の中、そう甘くはなかった。音が出ない!唇の形をどんなふうに変えても、さっぱり音が出ない。音は出ないが、そこいら中、唾が飛び散り、エレガンスでもなんでもない。おまけに、一生懸命に吹きすぎて、頭に血は上り、卒倒しそうになった。肺も苦しい。フルートは命懸けだ。たとえ乙女心をくすぐったとしても命あつてのこと。すこし成長した少年は、人生が薔薇色になる前に、静かにフルートを置いた。

そんなわけで、中年の域に達したかつての少年は、ピアノに手を伸ばした。

ピアノに良い思い出はなかった。幼少の頃、親に無理にピアノを習わされたから。それに、ちっとも上達しなかったし、挙句の果て、レッスン場である先生の自宅をフルに使ってかくれんぼばかりしていたので、退学処分になってしまったし。

けれど、ピアノは、ギターほど指が痛くないし、叩けば音も容易に出る。ピアノのあるバーで「イエスタデイ」なんか弾くと、独りでグラスを傾けている妙齢の女性から、「この後、一緒にしません?」などと誘われ、人生が薔薇色になること請け合いだ。それに、もしかしら、ゆりの木夏祭りのステージに立てるかもしれない。

中年の域に達した少年の、ピアノとともに歩む人生が薔薇色かどうか、乞うご期待。その結果は、十年後の「会報ゆり北」をご覧ください。



これがマカロニでつくったリース



これいなブローチをかいだ。



これがクリスマスカード



これがあそび

それで、ほかのともだちもきたのでまたあそびました。あそびは、なんか、けいさつごっことか、あかちゃんごっことかいろいろやりました。帰る時間になってしまいました。わたしは、みんなにバイバイ。と、言って、かえりました。(おわり)

十四号棟 秋山風吹

編集後記

寒さもこれからが本番となります。昨年末から風邪が流行っています。ご自愛下さい。 広報部一同